

乗務員指導のポイント

1.（旅客貨物共通メニュー）

対応項目：運転者の運転適性に応じた安全運転

— 適性診断の結果を利用するために —

適性診断を受けたことがあるドライバーは多いと思いますが、その結果はきちんと有効活用できていますか？結果によって、どういった点を見直せばいいのか考えていきましょう。

【指導のポイント】

1. 運転と、適性診断で見る項目とが、どのように結びついているのかを考えましょう。
2. 適性診断の結果を受けて、どういった運転を心がけるべきか運転者と話し合う機会を設けましょう。

▶一般診断

普通免許以上を持っていれば誰でも受診でき、ドライバーの性格、運転態度、認知・処理機能、視覚機能などについて、心理や生理の面から運転の特性を把握、安全運転に役立つアドバイスを記した適性診断票を発行します。3年ごとに1度の受診が勧められています。

▶初任診断

所属する運送事業者において、新たに運転者として採用される人が受診します。

貨物、旅客によって違いがあり、旅客の中でも一般貸切の例外がありますので、法令等を参照するようにしましょう。

▶適齢診断

所属する運送事業者において、65歳以上の運転者に受診義務があり、一般診断とほぼ同じ内容の診断を受けます。加齢による身体機能の変化が運転に与える影響を十分に認識してもらうことで、事故の未然防止に繋がります。

▶特定診断

【特定診断Ⅰ】

- ① 死亡事故又は重傷事故を起こし、かつ当該事故前の1年間に事故を起こしたことがない人
 - ② 軽傷事故を起こし、かつ、当該事故前の3年間に事故を起こしたことがある人
- カウンセラーが交通事故を引き起こした状況について聞き取りを行い、運転経歴等を参考に交通事故の再発防止に必要な運転について指導・助言します。

【特定診断Ⅱ】

死亡事故又は重傷事故を起こし、かつ当該事故前の1年間に事故を起こしたことがある人
カウンセラーが、運転者の運転に関わる諸特性を明らかにするとともに、事故を引き起こすきっかけとなった運転特性と背景となった要因を分析します。

2. (旅客貨物共通メニュー)

対応項目：乗車中の旅客の安全を確保するために留意すべき事項

主として運行する路線若しくは経路又は営業区域における道路及び交通の状況（旅客）

適切な運行の経路及び当該経路における道路及び交通の状況（貨物）

危険の予測及び回避並びに緊急時における対応方法

— 道路冠水に対する注意 —

集中豪雨は、近年ますます増加傾向にあります。それに伴い道路の冠水も起こりやすくなっているの
で、必ず対処できるようにしましょう。乗客の方や預かった荷物を守るために重要な知識です。

【指導のポイント】

1. 冠水場所はなるべく通行しない、近づかないことを教えましょう。
2. 冠水場所を通過できるか、適切に判断することが大事です。
3. ドアが開かなくても、焦らずに行動するようにしましょう。

▶冠水はなぜ起こる？

近年、ヒートアイランド現象（都市部の気温が周辺地域にくらべて異常な高温を示す現象）によるものと考えられる局地的な集中豪雨（いわゆるゲリラ豪雨）が頻繁に発生しています。

ゲリラ豪雨が起こりやすい都市部では舗装されている面積が多いため、雨水のほとんどが排水溝から下水道、貯水設備へと流入します。短時間に大量の雨が降り、その処理能力の限界を超えてしまうと下水道から水があふれ出し、道路を洪水のように覆いつくしてしまいます。冠水してしまった道路は、猛烈な風雨による視界不良とともに非常に危険な状態となります。

▶もっとも危険な場所

冠水によって、もっとも危険となる場所は高架下や立体交差点などのアンダーパスです。道路の中でもさらに低くなっているアンダーパスでは、クルマが深みにはまって立ち往生し、さらには水没してしまうといった痛ましい事故も発生しています。

各都道府県では、集中豪雨時に冠水しやすいアンダーパスや区間をまとめた情報を公開しています。普段から雨が降ると水がたまりやすいポイントを確認しておき、豪雨の際はそうした区間の走行を避けるように心がけておきましょう。

▶水没に備えて

窓ガラスを割る緊急脱出用ハンマーを車内に用意しておくことで安心です。シートベルトを切る機能がセットになったハンマーも発売されています。

最悪の場合、車内に大量の水が浸入すれば、車外との水圧差がなくなってドアを開けられるようになることを覚えておきましょう。

3. (旅客貨物共通メニュー)

対応項目：危険の予測及び回避並びに緊急時における対応方法

— 駅前ロータリーでの危険回避シミュレーショントレーニング —

駅前ロータリーではたくさんの車がそれぞれの目的のために動いており、その動きを予測するのは難しいことです。そんな中で走行する際、どういった点に気をつけるべきかを考えていきましょう。

【指導のポイント】

1. ロータリーにはどのような危険が潜んでいるか考えましょう。
2. いつもよりも更に色々な方向に気を配り運転することを教えましょう。
3. ロータリーでのヒヤリハット経験があれば、社内で話し合しましょう。

▶ロータリー内の歩行者

2019年3月、福島県会津若松駅前のロータリーで、動き出した路線バスに79歳の女性をはねられ、女性が死亡するという事故が発生しています。女性は、バスの運転者から見えにくい場所において、バスを動かすときに見落とされたと思われます。

駅前基本、車の通行を優先する構造になっており、歩行者の横断が禁止されているエリアが多く、歩行者は遠回りを余儀なくされることが多くあります。しかし、そのため、ロータリーにいる迎えるの車に乗ろうとしたり、近道をしたと考えた歩行者がロータリー内を横断したりすることが少なくありません。

今回の事故現場はバス専用ロータリーでしたが、もちろんバス以外の車にも事故の危険があります。「駅前ロータリーは車優先だから歩行者などいない」と思い込まないで、慎重に前後左右の確認をして車を動かすように心がけましょう。

▶ヒヤリハット経験

実際に駅前ロータリーでのヒヤリとした体験談、目撃談などを聞いてみましょう。

実際にあった出来事をお互いに聞いたり話したりすることで、安全に対する気持ちを社内全体で引き締めていきましょう。